

しとしとと雨の続く、梅雨の時期がやってきました。



御存じの方も多いと思いますが、六月は別名を『水無月(みなづき)』と呼びます。これはもともと旧暦での名称で、「真夏の太陽が照りつける水の無い月」であると考えられ、現代の七月に当たる時期だと言われています。しかし現在では梅雨の時期を含むことから、「雨で地上に流れ、天の水が無くなる月」という意味合いもあるそうです。

さて、このように『水無月』といえば、暦の名称で知られていますが、皆さんはまったく同じ名称の和菓子があることをご存知でしょうか。和菓子の『水無月』は白い外郎(うしろ)生地の上に小豆を乗せ、三角形に切られた生菓子です。小豆は邪気を払い、三角の形は暑気を払う氷を表していると言われています。京都では一年の丁度折り返しにあたる六月三十日に、この半年の罪や穢れ(けがれ)を誂(はら)い、残り半年の無病息災を祈願する神事【夏越祓(なごしのはらえ)】が行われますが、その際に食べられるのがこの『水無月』なのです。

和菓子の中で唯一暦と同じ名称をもつ、まさしく日本の伝統菓子の一つである『水無月』。夏の訪れを感じさせるこの和菓子を見かける機会があれば、ぜひ食べてみてはいかがでしょうか。

理学療法士 長者森 早苗

## 特集 『作業療法』「園芸」第7回 (完)

最終回は園芸について紹介します。

庭で花を育てたり、畑で野菜をつくったりと、園芸は多くの人にとって馴染みのある作業ではないでしょうか。

園芸は、土を耕す、種をまく、水を撒く、雑草をとるなどたくさんの作業から成り立ち、年齢や性別に関わらず多くの方が参加することができます。

作業を通じて、体力や持久力が向上するだけでなく、ストレスの軽減、意欲回復、認知機能への働きかけなど、精神機能への効果も期待できます。育てる花や野菜の成長と共に継続して関わることで、生活の質や社会性の向上にもつながります。

当苑でも週1回、入所の利用者様とリハビリスタッフが園芸活動を行っています。

春の土作りから始まり、秋まで毎週大忙しです。昨年



はゴーヤのグリーンカーテンにも挑戦。車椅子でも作業しやすい特製大型プランターも活躍し、皆で苺を収穫しました。

昔、畑仕事をされていた方も多く、皆さん自然と身体が動いてしまうようで、素早い手つきで驚かされることも少なくありません。植物を育てる癒しの効果は大きく、季節を感じ、植物の成長や収穫を楽しみに作業に取り組むことで表情が生き生きしてきます。

また、大勢で作業することにより、自然と会話も弾み、共に楽しみを共有できる楽しい時間を過ごす事ができます。作業が難しい方もその場で一緒に鑑賞することで気分転換になるでしょう。

そろそろ春に植えた苗が元気に伸びていく時期ですね。たくさん収穫した「あおやぎ苑産」の野菜をご紹介しますよう、今年もみんなで頑張ります。

文責：作業療法士 佐久間 大

## 新入職員紹介

やすだ ゆうこ  
**安田 悠子** (助手)

不慣れな所も多く、御迷惑をおかけするかもしれませんが、一日も早く皆様のお名前・業務を覚え頑張ってお参りますのでよろしくお願い致します。



みわ たくや  
**三輪 拓也** (作業療法士)

こんにちは。4月から通所からリハビリ課に異動しました。精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。見かけたら声をかけて下さい。



こばやし かおる  
**小林 薫** (助手)

リハビリをなさる皆様楽しく安心して体を動かせるようお手伝いをさせていただきますのでよろしくお願い致します。



# チーム紹介③

## 縄文棟 3F



左から：杉浦 的場  
森下 末武 藤田



左上から：阿部 加納  
左下から：山野邊 池田



左上から：有吉 柿崎 星  
左下から：弥永 福島 齊藤

はじめまして。縄文棟 3階です。

現在私たちはショートステイをメインに利用していただいております。ショートステイということで数日間のご利用がほとんどです。長い人生で考えますと一時ではありませんが、大切な時間を共有させていただいております。

スタッフは皆“わ”を大切に、日々過ごしております。スタッフ一同“輪”となり利用者様との会話“話”を大切に、和やか“和”なフロアを目指して。

何かございましたら遠慮なく、お声を掛けて下さい。

### あおやぎ徒然草 2

前号からTMさんのエッセーを紹介するコーナーが始まりました。TMさんは20歳の頃より能を好むようになり、月に一度、紋付袴で舞台上に立ち、練習の成果を披露していました。殺伐とした戦後の生活のなかで、繊細で優美な能に触れる時間はTMさんにとってかけがえのないものだったようです。

能の演目は読み方がずいぶん難しいですが、前号の質問の答えは、杜若（かきつばた）、海士（あま）、熊野（ゆや）、小督（こごう）、弱法師（よろぼし）でした。皆様はいくつか知っているものがありましたでしょうか？

#### 杜若（2回目）

能は1度は見ておきたい。なにしろ600年以上の歴史をもつ伝統芸能だ。台詞は文語体。謡は仏教の声明のようで、何をいっているのかさっぱりわからない。ましてや腰掛けの生活に慣れた人は、正座して謡うことができない。困ったものだ。

杜若と書いて、かきつばたと読む。英語ではアイリス。花菖蒲科の1年生植物。京都銘菓の八つ橋は、杜若の名所にちなんだネーミングだ。八方に流れる川に架かった八つの橋。その沢に群生する美しい初夏の花を見て、男は言った。杜若の5文字を句のかみにおいて、一首できんものか。

在原業平は詠んだ。唐布、着つつ馴れにし妻しあれば、はるばる来ぬる旅をしぞ思う（古今和歌集）。歌に秀でた業平は、極楽の歌舞の菩薩、つまり芸術の仏さまという扱いであった。その縁で杜若の花も成仏できた。

ひたすら舞台上に流れる幽玄の奇跡は、浅紫の東雲の空のイメージに溶け込んでジ・エンドとなる。



### HAL研修

前号も紹介しましたが、福祉用ロボットスーツ「HAL」は立つ、歩く、階段昇降をサポートする福祉機器です。（写真1）リハビリでの活用を目指し職員が研修を行いました。（写真2）

4月に行われた第2回の研修では実際に被検者を選定し、ケーブルや機器の設置などの練習をしました。HALの本体と脚の位置を合わせると（写真3）のようになります。

HALは利用される方に合わせて関節の角度や足の長さ、補助する筋力の量などを調節することができ、膝折れ防止機能や転倒につながる危険な動作を防止する誤動作防止機能など特殊な機能もついています。本体の腰の位置にあるボタンで微調整し、専用のパソコンでモニタリングしながら使用します。（写真4）

疾患や体調など適応範囲があり、体型についても体重など制限がありますので全ての利用者様が使用できる訳ではありませんが、リハスタッフで意見を出し合い進めていきたいと思っております。



写真1



写真2



写真3

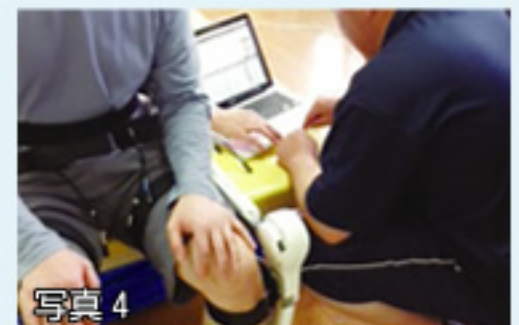


写真4

### 私のふるさと自慢

岸和田市は和泉（泉州）と称される大阪府南西部に位置し、大阪湾から和泉山脈に至る細長い形をしています。泉南地域の中心都市でもあり、人口約20万人の特例市に指定されています。

大阪府内の他の地域と比べ、野菜では泉州玉ねぎや水なす、果物ではみかんや桃を多く栽培し、沿岸部には漁港が多く、泉だこなど新鮮な魚介類を売る市場もあります。和泉葛城山を含め3つの山、牛滝川を含む3つの川がありたくさんの自然にふれ合える場所が岸和田にあります。



そして、岸和田での大イベントがだんじり祭りです！

1703年に岸和田藩主であった岡部長泰が伏見稻荷大社を岸和田城三の丸に勧請し、五穀豊穰を祈願して行った稻荷祭を始まりとする説があります。

速度に乗った重さ4tもあるだんじりを方向転換させる「やりまわし」が醍醐味で、曳行（エイコウ）コースの曲がり角では大勢の観客が歓声を上げています。非常に精緻な彫刻も見所です。近年、だんじりを所有する町会が増加しており、同日開催の春木だんじり祭と合わせて南北3.5km、東西1kmの範囲で交通規制が敷かれ、国内最大規模で行われます。

岸和田市に少しでも興味を持たれた方はぜひ遊びに来て下さい。

理学療法士 徳上みゆき